

ITU (国際電気通信連合) は、電気通信分野で各国や企業の利害を調整して国際的な取り決めるを行う国連の専門機関で、約190カ国が加盟する世界で一番古い国際機関です。

表決は各国とも1票ずつで平等ですが、これは建前。実際はコンセンサス(全会一致)での決定がほとんどで、大國やベテランの顔役たちの意見が大きいのです。マルチ(多國間)の議論をどうやって自國の有利に進めるかが鍵ですが、日本はこれが下手です。国益と企業利益、個人の立身出世が絡み合った極めてどうどうとした政治の場でした。強く自己主張し自分や自國の利益だけを優先する、また、他國を助けるように立ち回り実は自國の利益のために動く、そ

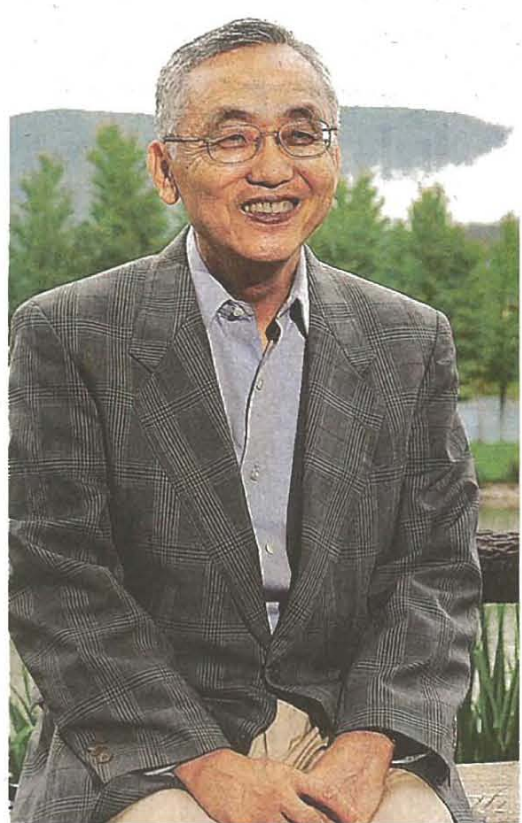
山ろく清談

んな社会に8年間いました。

その経験から、日本人の特殊さを強く感じます。日本は資源を外國に頼り、店に並ぶ食料品も多くが外國産なのに、自分たちだけで生きられると思っっている。マスコミも行政も世界情勢のフォローができていないし、人々にも世界の中でやっていく

うつ み よし お
内海 善雄さん

合長 連局 通総 電務 国際 国内



早大客員教授。旧郵政省(現総務省)を経て、98年に国連機関のITU事務総局長に立候補、当選。2期8年務めた。著書に「『国連』という錯覚」など。香川県出身。67歳。北佐久郡軽井沢町の矢ヶ崎公園で。

「国際モード」の考え方

という認識がない。

例えばごく最近の第3世代の

携帯電話になるまでは、日本の電話は外國で使えず、外國の電

話は日本で使えませんでした。

このようなことは、日本だけで

訪日外國人の不便や世界市場のビジネスチャンスに目を向

けず、世界中で採用した方式を取り入れなかったのです。

消費税の問題も、世界では消費

税を高く、法人所得税を低く

しているのに、日本だけ違う制度だと、日本から企業が流出するようになることが起こりうる。国際社会からは、国際的な視野を欠いた社会は時に異様にも見えしました。政権交代後、二酸化炭素の排出削減や米軍基地問題、消費税などについて首相の発言が続きましたが、大きな視野で国民に問題を認識させた点は、評価できると思います。

経験を多くの人に伝えよう

と、大学で教えています。国際

機関の現実について本にし

たが、国際公務員を目指してい

た学生は本を読んで、「私には

向かない」とあきらめてしま

ました。授業でも一般学生は手

を挙げません。「出席ゼロでも、

みんなの前でスピーチしたら単

位をあげる」と言いましたが、駄目でした。人前で自分の意見を話せないのです。逆に帰国子女や留学生は積極的ですが、社会が彼らの力を活用できていませんね。

隔離されて平和が続いた日本は、まず相手を信じるという性善説の社会で、議論はいらない。しかし国際社会ではまず疑って、そして自分で考え、自分で判断します。

私は、自己を主張せず問題解

決に和の精神で取り組むのは日

本の美風だと思えます。しかし、

グローバル社会の中で、これか

らもそうやって生きるのには厳

しい。生きる知恵として、場合に

よって考え方や行動を「国際モ

ード」に切り替えられるよう、教育が重要だと思えます。